

第114回取締役会の内容について

IGRいわて銀河鉄道株式会社(代表取締役社長 鈴木敦)では、「第114回取締役会」を開催しました。主な内容は、以下のとおりです。

【資料1】2025年度事業計画について・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1~10

【資料2】2024年4月~12月の輸送概況について・・・・・・ p.11

※お問い合わせにつきましては、本日17:30まで受け付けますので、下記担当までご連絡ください。

IGRいわて銀河鉄道株式会社
企画部 広報企画グループ
TEL 019-601-9981 FAX 019-601-9998
〒020-0133 盛岡市青山 2-2-8
URL <https://igr.jp/>

2025年度事業計画について

1. 事業運営の基本方針

(1) 基本方針

前年度は、経営ビジョン及び中期経営計画の2年目であり、鉄道事業の安全・安定輸送の確保を第一に、全社一丸となってコスト削減の取組を進め、鉄道利用者の増加を図るとともに、経営環境の変化を踏まえ、持続可能な経営基盤の構築に取り組みました。

一方、社会経済活動及び個人消費の回復による鉄道利用の需要回復が期待されたものの、沿線人口の減少に加え、生活様式の変化等により、旅客運輸収入はコロナ禍前の水準には戻っていないこと、また、資源・エネルギー価格の高止まりや老朽化した施設・設備の取替が必要なことなどにより、引き続き、厳しい経営状況が続くものと見込まれるところです。

こうした状況の中、2025年度においても、中期経営計画に掲げる6つの重点項目を基軸として、計画に掲げる取組を着実に進めることにより、安定した経営や更なる収支改善に取り組んでいきます。

今後も、安全・安定輸送の確保を図りつつ、持続的な経営が可能となるよう経営改善を強力に進めるとともに、地域と連携し沿線への観光客誘致など交流人口の拡大を図りながら、地域公共交通の維持・活性化と持続可能な地域社会の構築（まちづくり等）に不可欠な鉄道となることをめざしていきます。

(2) 2025年度の主な取組内容

- ① **【信頼される鉄道】** ～安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます～
 - ・ 当社にとって最大の使命である安全・安定輸送を継続するために、地域の皆様に対して事故防止及び安全啓発活動を行うとともに、実車運転訓練会や防災訓練などを通じて社員の災害への対応力の強化を図ります。
 - ・ お客さまに安心してご利用いただくため、車両更新の検討を行うとともに、車両の機器保全やロングレール交換等を行い、鉄道施設及び車両の適切な維持管理に努めていきます。
- ② **【元気な地域】** ～暮らしやすく、にぎわいのある地域づくりに貢献します～
 - ・ 利用しやすい列車ダイヤへの見直しを行うほか、駅の認知度向上や学生向けのPRの強化、新たな企画きっぷの造成等による利用促進に取り組みます。
 - ・ 沿線のにぎわい創出のため、着地型ツアーや沿線の誘客イベントと連携した企画列車の運行等に取り組みます。また、IGRパートナーズ会や地域の関係機関と連携・協働した事業を行い、地域住民のマイレール意識の醸成を図ります。
- ③ **【挑戦する組織】** ～常にチャレンジ精神をもち、成長する企業をめざします～
 - ・ DXの推進による業務の効率化や生産性の向上、遊休資産の有効活用、鉄道施設を活用した広告事業の強化等により、安定的な事業運営と継続的な設備投資が可能となるよう収支改善に努めます。
 - ・ 社内公募制度や組織・事業の不断の見直しを通じて職場環境の整備及び社員満足度の向上を図り、会社の持続的な成長へ繋がります。
 - ・ 優秀な人材の確保に向け、新卒採用イベントや会社説明会への参加、U・Iターン採用による採用活動に努めます。また、次代を担う組織づくりのために人材育成方針を策定し、各種研修や勉強会を通じて社員の成長を図ります。

2. 鉄道輸送に関する計画

(1) 基本方針

列車ダイヤについては、利用実態調査やお客さまの声に応じた利用しやすいダイヤを検討するとともに、混雑する時間帯の運転本数を見直すなど、利便性と快適性の向上に努めます。

また、鉄道を日常的にご利用いただけるよう、定期券利用の増加を目的としたPR活動を強化するほか、地域の観光施設とタイアップしたセット商品など、便利でお得な企画乗車券を造成し、鉄道利用の促進を図ります。

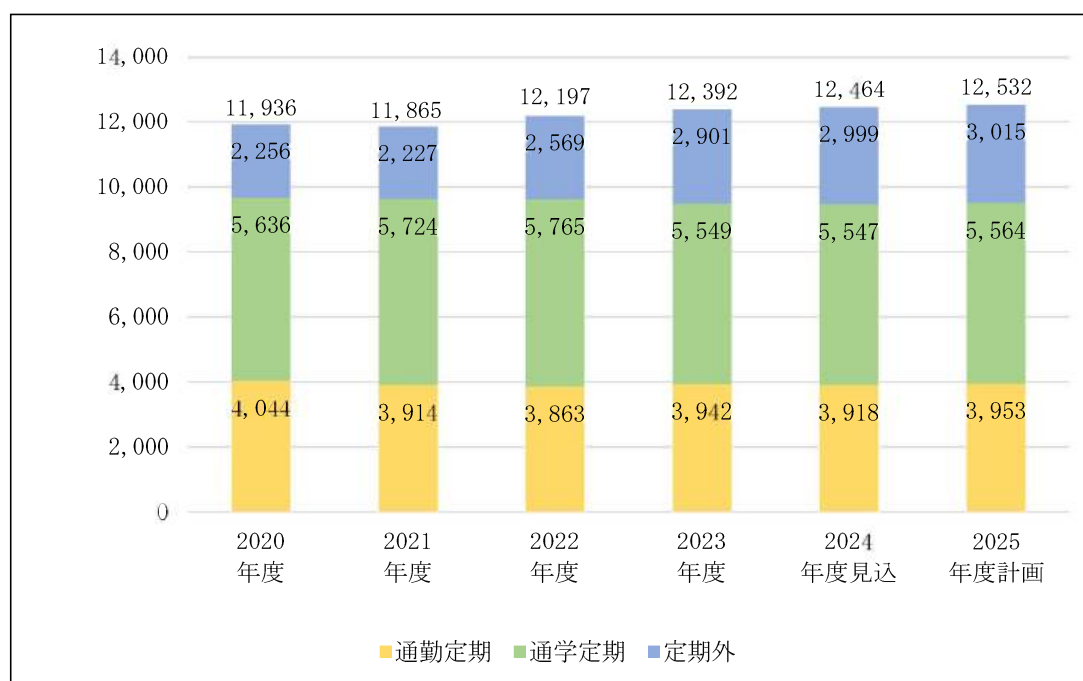
さらに、県や沿線市町、地域の関係団体等と連携・協力し、多様なイベントへの参加や沿線を目的地とするツアーの催行を通じて、県北地域の賑わいを創出し、交流人口の拡大に取り組みます。

(2) 1日当たりの輸送人員の推移と計画

(単位：人/日)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度見込	2025 年度計画
通勤定期	4,044	3,914	3,863	3,942	3,918	3,953
通学定期	5,636	5,724	5,765	5,549	5,547	5,564
定期外	2,256	2,227	2,569	2,901	2,999	3,015
合計	11,936	11,865	12,197	12,392	12,464	12,532

※2024年度は、2025年3月1日現在の見込みであること。



3. 収支計画

(1) 基本方針

安全・安定輸送の確保を第一に、当社を取り巻く環境の変化に柔軟に対応しながら、新たな企画きっぷの造成や鉄道施設を活用した広告事業の強化などの収入確保に向けた取組を推進し、持続的な経営基盤の構築を図ります。

また、更なる成長・発展に向け、社員一人ひとりが常にチャレンジ精神を持ち、関係機関や地域と連携・協働しながら、鉄道の利用促進やにぎわいのある地域づくりに積極的に取り組めます。

(2) 収支計画一覧

【概要】

■当期損益 32,937千円 (2024年度決算見通し比：3,380千円、2023年度決算比：▲179,452千円)

営業収入は、定期利用の促進に向けた取組や新たな企画きっぷの発売等により旅客運輸収入が85,436千円増加するほか、鉄道施設を活用した広告事業の強化等により、2024年度決算見通し比で95,583千円の増収。

営業費は、給与水準の見直しによる人件費の増加や電力費の高止まり、物価高騰の影響等により2024年度決算見通し比で79,323千円の増加。

当期損益は、県・沿線市町による経営安定化対策交付金(300,000千円)を2024年度と同様に営業外収益に計上したことで32,937千円の黒字となる見込み。

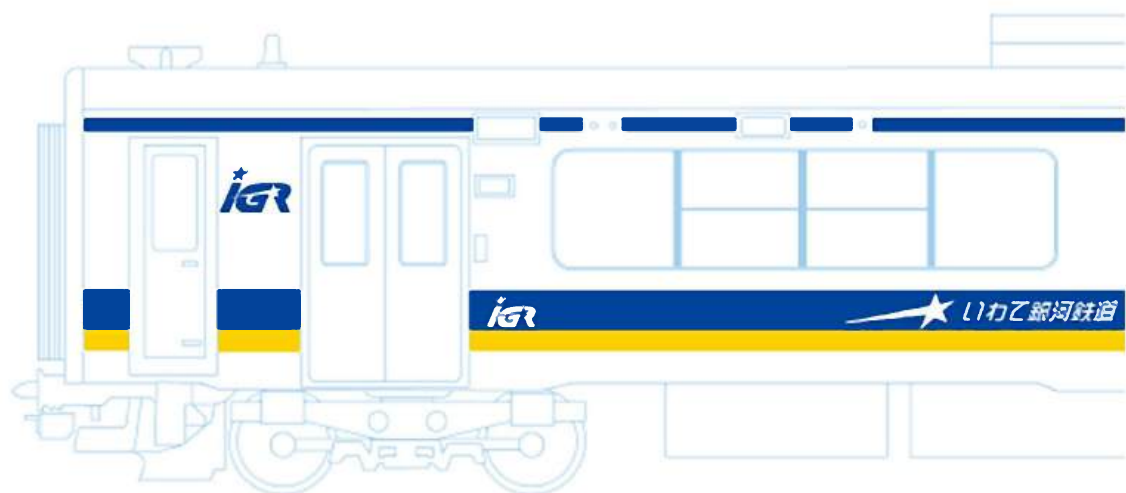
(単位：千円、税抜)

項目	2025年度 収支計画 A	2024年度 決算見通し B	増減 C (A-B)	摘要	2023年度 決算 D
営業収入	4,180,109	4,084,526	95,583		4,050,603
旅客運輸収入	1,122,560	1,037,124	85,436	利用促進に向けた取組等による増	1,048,364
線路使用料収入	2,838,578	2,859,467	▲20,889		2,781,224
運輸雑収 関連事業収入 商品売上	218,971	187,935	31,036		221,014
営業費	4,446,379	4,367,056	79,323		4,410,798
人件費	1,108,595	1,048,455	60,140	給与水準の見直しによる増	1,065,493
業務費	793,883	718,397	75,486	物価高騰による電力費等の増	732,282
修繕経費	2,003,414	2,046,466	▲43,052	修繕計画等の見直しによる減	2,067,355
諸税	164,981	164,215	766		162,035
減価償却費	375,506	389,523	▲14,017		383,633
営業損益	▲266,270	▲282,530	16,260		▲360,194
営業外収益	314,778	319,229	▲4,451	いわて銀河鉄道経営安定化対策交付金 (300,000千円)	332,045
営業外費用	38,265	22,719	15,546	金利上昇に伴う支払利息等の増	21,596
経常損益	10,243	13,980	▲3,737		▲49,746
特別利益	191,320	172,801	18,519		345,064
特別損失	151,634	133,357	18,277		108,499
税引前当期損益	49,929	53,424	▲3,495		186,819
法人税等	18,333	7,826	10,507		13,641
法人税等調整額	▲1,341	16,041	▲17,382		▲39,211
当期損益	32,937	29,557	3,380		212,389

※千円未満端数処理の関係で、各項目の合計と合致しない場合がある。



アクションプラン2025



IGRいわて銀河鉄道株式会社

はじめに

『経営ビジョン(2023～2032)』、『中期経営計画(2023～2027)』の考え方に即した今年度の具体的な計画が、ここで紹介する『アクションプラン 2025』です。

前年度は、経営ビジョン及び中期経営計画の2年目であり、1年目の取組を基にし、更なる発展を遂げるための年でありました。2024年度は、日常生活がコロナ禍前の状況に戻る一方、沿線人口の減少に加え、生活様式の変化等により、旅客運輸収入はコロナ禍前の水準には戻っておらず、我々を取り巻く環境は依然厳しい状況にあります。

こうした状況の中、2025年度は経営ビジョンの3年目として、過去の2年間の取組を踏まえ、中期経営計画の達成に向け、会社の基盤をより盤石なものへ築きあげていきます。地域に根差した鉄道会社として、「将来にわたり地域の足を守り続ける」という不変の使命を果たすべく、中期経営計画に掲げる6つの重点項目を軸に、目標の達成と諸課題の解決に向けて事業をより推進します。四半期ごとに進捗状況を確認し、計画を見直し軌道修正していくことによって、取組をより確実なものにしていきます。(この要約版は、主なものを抜粋したものです。)

■ 経営理念

人を 地域を 未来へつなぐ、かけがえのない鉄道をめざします

■ 経営目標

I. 【信頼される鉄道】安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます

鉄道の根幹である安全・安定輸送を確保するため、計画的な設備投資と維持修繕を実施します。また、地域の皆様への安全啓発活動を推進するとともに、異常時対応訓練や技能訓練を実施し、近年の頻発化・激甚化している災害への対応力の強化を図ります。開業以来の重大鉄道事故「ゼロ」を継続し、信頼される鉄道として安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます。

II. 【元気な地域】暮らしやすく、にぎわいのある地域づくりに貢献します

鉄道の利用実態やお客さまの声に基づき、より利用しやすい列車ダイヤをめざすとともに、ニーズに即した企画きっぷ・割引きっぷの造成、リアルタイムでの運行情報の配信による利便性の向上により、鉄道の利用促進を行います。IGRパートナーズ会や地域の関係機関と連携・協働し、鉄道の利活用を通じて地域の活性化に貢献するとともに、沿線地域の皆様のマイレール意識の醸成を図ります。

III. 【挑戦する組織】常にチャレンジ精神をもち、成長する企業をめざします

会社を取り巻く環境は常に変化しています。その変化に柔軟に対応し、鉄道の利用促進をより積極的に行います。そのために収入確保に向けた取組と、コスト削減に向けた取組をより一層推進し、持続的な経営に向けた強固な財務基盤を構築します。また、社員一人ひとりが先入観を持たず、常にチャレンジする気持ちを持ち続け、社内公募制度などを通じて、新たなアイデアの提案や技術を取り入れることで、絶えず前向きに挑戦し、成長し続ける企業風土づくりを進めます。

I.【信頼される鉄道】安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます

◆重点項目 1. 【安全・安定輸送の確保】

～当社にとって最大の使命でもある安全・安定輸送に引き続き取り組みます～

<p>1-1. 重大鉄道事故「ゼロ」の継続</p> <p>運輸安全マネジメントやリスクマネジメントの強化、多客輸送期間前の安全総点検の実施などを通じて、安全意識の深化・高度化を図り、重大鉄道事故「ゼロ」を継続します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 運輸安全マネジメント制度に基づいた運輸安全内部監査の実施 ② 多客輸送期間前の安全総点検の実施 ③ 「ヒヤリ・ハット」など、収集した事象の分析、安全推進委員会などで対策を検討・実施
<p>1-2. 鉄道施設や車両の適切な維持管理と更新</p> <p>老朽化が進む鉄道施設や車両の適切な維持管理・更新を計画的に実施することにより、鉄道施設の安全及び車両の安定運行を確保し、信頼性の向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 鉄道施設や車両の計画的な更新・維持管理の実施(車両更新の検討、機器保全、運行管理システムの更新、ロングレール交換、電気踏切しゃ断機取替、電柱取替など)
<p>1-3. 異常時における対応力・即応力の強化</p> <p>激甚化している自然災害や鉄道テロ等緊急事案に迅速に対応できるよう、関係機関と連携しながら実車運転訓練や防災訓練などを実施するとともに、必要に応じて計画やマニュアル等の見直しを行い、異常時における対応力・即応力の強化を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 異常時対応訓練の実施並びに付随するマニュアルの見直し・改定 ② 実車運転訓練会の実施 ③ 関係機関との連携強化(事故・テロ対応を目的とした警察、消防との合同訓練など) ④ 他社主催の異常時対応訓練への参加
<p>1-4. 事故防止・安全啓発活動による安全意識の向上</p> <p>春・秋の全国交通安全運動に併せた踏切事故防止運動や、小学校等での鉄道安全教室など、事故防止・安全啓発活動を実施し、沿線地域の皆様の安全意識の向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 踏切事故防止運動の実施 ② 安全啓発活動情報の積極的な発信



実車運転訓練会(乗客誘導)



踏切事故防止運動(境田川原踏切)

II.【元気な地域】暮らしやすく、にぎわいのある地域づくりに貢献します

◆重点項目 2. 【便利な鉄道】

～利用しやすい列車ダイヤの見直しや利用者の増加に向けた駅の認知度向上や企画きっぷの造成等に取り組み、多くのお客さまにとって使いやすい鉄道をめざします～

<p>2-1. 利用しやすい列車ダイヤへの見直し</p> <p>鉄道の利用実態調査やお客さまの声を分析し、他の公共交通機関との接続性の向上を図るなど、より利用しやすい列車ダイヤをめざします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用実態調査の実施 ② お客さまの声の収集・分析 ③ ダイヤ改正調整会議の実施検討
<p>2-2. 利用促進の強化</p> <p>お客さまのニーズに即した企画きっぷ・割引きっぷの造成による新規需要の掘り起こしや、シームレスな移動を可能とするMaaS等の新たなモビリティサービスの提供、リアルタイムでの運行情報の発信による利便性の向上などにより、鉄道の利用促進を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 定期利用者の増加に向けた駅の認知度向上や学生向けのPRの強化 ② 新たな企画きっぷの造成 ③ リアルタイム運行情報配信システムによる迅速な情報発信 ④ ホームページやSNSを活用した当社及び沿線のイベント情報等の発信
<p>2-3. キャッシュレスな乗車システムへの導入に向けた検討</p> <p>ICカードやQRコードなどを用いたキャッシュレスな乗車システムの導入に向け、利便性の向上と合わせて、収益面やコスト面からも引き続き検討を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① キャッシュレス乗車システムの情報収集及び導入検討
<p>2-4. 駅や車両の快適な環境の整備</p> <p>お客さまの声をはじめとしたサービス向上に資する情報を社内でも共有し、適時適切に対応・改善を図るとともに、より快適にご利用いただけるよう、駅や車両の利用環境の整備に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 駅や車両の利用環境改善 ② 駅設備点検や巡視の実施と、改善に向けての意見交換会の実施 ③ 駅設備の改良計画の策定・実施

◆重点項目 3. 【地域との協働とにぎわいの創出】

～地域の関係機関等と連携・協働した事業を展開し、地域のにぎわい創出、地域住民のマイルールの醸成を図ります～

<p>3-1. 多彩なイベントやツアーと情報発信による地域のにぎわい創出</p> <p>多彩なイベントの開催や、地域と連携した沿線への着地型ツアーの実施などを通じ、地域のにぎわいを創出するとともに、ホームページやSNSを活用し、沿線の魅力ある情報を発信することにより、交流人口の拡大を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 沿線への誘客イベント・ツアーの実施 ② 沿線のイベントへの参画 ③ 県内外で開催される交通関係イベントでの当社及び沿線の魅力をPR ④ 【再掲】ホームページやSNSを活用した当社及び沿線のイベント情報等の発信
---	---

<p>3-2. 地域の活性化とマイレール意識の醸成</p> <p>IGRパートナーズ会や地域の関係機関と連携・協働し、様々な事業を行うことにより、鉄道の利活用を通じた地域の活性化や、沿線の方々のマイレール意識の醸成を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① IGRパートナーズ会や関係機関と連携・協働した事業の企画・実施 ② ファンクラブ会員に向けた企画の実施 ③ 登録有形文化財登録(鉄道土木構造物)に向けた関係機関等との調整を開始
<p>3-3. 駅を中心としたまちづくりへの貢献</p> <p>県・沿線市町による公共交通ネットワークの形成や新駅の設置などの「駅を中心としたまちづくり」に、積極的に協力・貢献します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 関係機関と連携のもと、駅舎改良・新駅設置の検討 ② 沿線市町の公共交通計画策定への参画

Ⅲ.【挑戦する組織】常にチャレンジ精神をもち、成長する企業をめざします

◆重点項目 4. 【経営基盤の確立】

～収支改善に向け、DXによる業務効率化・生産性向上や遊休資産の有効活用等に取り組み、安定した経営基盤の確立をめざします～

<p>4-1. 収支改善に向けた取組の強化</p> <p>社員一人ひとりが新たな視点やこれまで以上のコスト意識をもち、利便性の向上や利用促進による需要創出により、安定的な収入の確保を図るとともに、徹底的なコスト削減に向けた取組を進めることにより、さらなる収支改善に取り組んでいきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 設備の長寿命化・省メンテナンス化に資する工事の実施(ロングレール交換・橋梁の重防食塗装など) ② 社内公募制度を活用した収支改善に資する取組を実施 ③ DX の推進による業務効率化・生産性向上に資する取組を実施 ④ 遊休資産の有効活用(売却・賃貸含む) ⑤ 鉄道施設を活用した広告事業の強化 ⑥ グッズの開発、販路拡大
<p>4-2. 持続的な経営が可能となる財務基盤の構築</p> <p>全社一丸となり、最大限の経営改善を推し進めるとともに、国や県・沿線市町からのご支援・ご協力をいただきながら、安定的な事業運営と継続的な設備投資が可能となるよう、財務体質の改善を図り、持続的な経営に向けた財務基盤を構築します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 高いコスト意識を持った予算策定と適切な決算管理 ② 経営状況を踏まえた設備投資計画の策定 ③ 補助制度を最大限活用した事業の実施 ④ 県や沿線市町との連携、情報共有 ⑤ 関係協議会との連携した要請活動等の実施 ⑥ 更なる収支改善を実現するため、部門横断の検討会において、短期的及び長期的な観点での事業を検討



IGR パートナース会



ヤマとなる研修

(社内公募制度で選考された取組の実施検討)

◆重点項目 5. 【持続的な成長】

～職場環境の整備及び社員満足度の向上を図り、会社の成長へ繋がります～

<p>5-1. 絶えず前向きに挑戦し、成長し続ける企業風土づくり</p> <p>社内公募制度などにより、社員のチャレンジ精神の向上を図りながら、新たなアイデアや技術を取り入れることで、さらなる成長・発展につなげていく好循環を作り出すことにより、絶えず前向きに挑戦し、成長し続ける企業風土づくりを進めます。</p>	<p>① 【再掲】社内公募制度で業務改善や収支改善・コスト削減に資する取組の提案・実施</p> <p>② DX化による業務改善の推進</p>
<p>5-2. 外部環境の変化に迅速かつ的確に対応できる組織体制の整備</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大やDXの推進、少子高齢化の進展など、急速かつ急激な外部環境の変化にも迅速かつ的確に対応できる組織であり続けられるよう、組織・人員体制の不断の見直しを進めます。</p>	<p>① 組織・事業の不断の見直しによる効率的な業務執行体制の構築</p>
<p>5-3. 働きやすい職場づくりやワークライフバランスの推進</p> <p>働きやすい職場づくりやワークライフバランスを推進し、社員の満足度やエンゲージメントを高めることにより、生産性の向上を図ります。</p>	<p>① 【再掲】DX化による業務改善の推進</p> <p>② 執務環境の整備・福利厚生の見直しを検討</p>

◆重点項目 6. 【人材の確保・育成】

～優秀な人材確保に向け多様な採用方法を導入するとともに、次代を担う組織作りに向けた人材育成方針を策定し、社員の成長を図ります～

<p>6-1. 研修の充実・強化</p> <p>持続的に成長する組織であり続けられるよう、社員の職務能力向上に向け、OJTや階層別研修などの社内外の研修の充実・強化を図り、次代を担い組織を牽引していく人材を育成します。</p>	<p>① 人材育成方針策定</p> <p>② 各種研修の実施 (新任階層別研修やコンプライアンス研修等)</p>
<p>6-2. 安全・安定運行に関する技術力や利用者サービスの向上</p> <p>安全・安定運行を確保するための専門的な技術や知見の習得を促進するとともに、お客さまに快適にご利用いただけるよう、接遇研修等によりサービス・スキルの向上を図ります。</p>	<p>① 技術勉強会や若手技能訓練会の実施</p> <p>② 事故防止検討会の実施</p> <p>③ 社外の技術研修などへの参加</p> <p>④ 運転取扱い訓練の実施</p> <p>⑤ バリアフリー研修・接遇研修の実施等</p>
<p>6-3. きめ細かな採用活動</p> <p>新卒採用イベントへの参加やインターンシップの実施、多様な採用方法の導入など、きめ細かな採用活動を行うことにより、将来を担う優秀な人材の確保に努めます。</p>	<p>① 適時適切な採用活動の実施 (新卒採用イベント・会社説明会への参加、U・Iターン採用・カムバック採用制度の運用開始など)</p> <p>② インターンシップの受け入れ</p> <p>③ 自社主催の説明会の開催</p>

2024年4月～12月の輸送概況について

◇ 輸送人員

【単位：人/日】

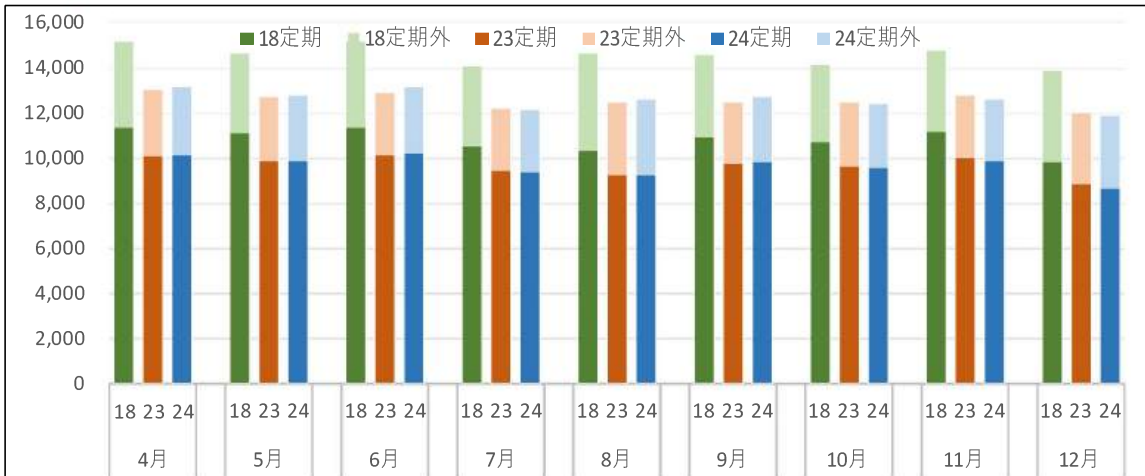
	2024年度	2023年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定期	9,627	9,671	▲ 44	100%	10,804	▲ 1,177	89%
通勤	3,899	3,900	▲ 1	100%	4,276	▲ 377	91%
通学	5,728	5,771	▲ 43	99%	6,528	▲ 800	88%
定期外	2,978	2,870	108	104%	3,746	▲ 768	79%
合計	12,605	12,541	64	101%	14,550	▲ 1,945	87%

◇ 旅客運輸収入

【単位：百万円】

	2024年度	2023年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定期	388	387	1	100%	446	▲ 58	87%
通勤	202	198	4	102%	227	▲ 25	89%
通学	186	189	▲ 3	98%	219	▲ 33	85%
定期外	402	399	3	101%	501	▲ 99	80%
合計	790	786	4	101%	947	▲ 157	83%

◇ 輸送人員グラフ



◇ 概況（輸送人員）

【定期】

2023年度同期比は概ね100%と同水準を維持しており、2018年度同期比では89%で推移している状況です。全体的な傾向として大きな変化は見受けられません。

今後は、鉄道利用を促すことを目的に、特に定期券利用の促進に向けたPR活動を強化し、日常的に鉄道をご利用いただけるお客さまの獲得に努めます。

【定期外】

2018年度同期比では79%にとどまり、依然としてコロナ禍前の水準には回復していない状況です。しかしながら、ゴールデンウィーク期間中や、さんさ踊り等の大規模イベントの開催に伴う利用の増加、さらには他社企画乗車券の好調な利用状況により、2023年度同期比では104%と増加しました。